

組	4 文法1		氏名
番号	1		
			二年の復習

1 次の文の傍線部に「努力してきました」とありますが、「努力して」と「きた」とはどのような関係になっていますか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

人間は、太古の昔から、太陽や月や、星の運行にあこがれ、興味をもち、眺めてきた。近代になってからは、科学の進歩とともに、太古の人間がたどり着けなかった真理へと近づくために、いっそう努力してきた。

- ア 主語・述語の関係      イ 修飾・被修飾の関係  
ウ 並立の関係              エ 補助の関係              「      エ      」

2 ア～エの傍線のうち、次の文の傍線部「楽しく元気に」と文節どうしの関係が同じものはどれですか。ア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

先生、お元気ですか。わたしはこの三月に高校を卒業し、愛知県の大学に入学しました。わたしは大学でもバスケットボール部に入りました。わたしは小学校の時からスポーツ少年団でバスケットボールをしていたので、迷わず入部しました。練習はけっして楽ではありませんが、楽しく元気に活動しています……。

- ア 青い海が見える。                      イ 公園のプールで友達が泳ぐ。  
ウ 私は犬と猫を飼っている。          エ 明日は遠足なのでうれしい。      「      ウ      」

3 次の文の傍線部に「いまでも」とありますが、この言葉はどこに係ってきますか。あとのア～エの中から選び、記号で答えなさい。

いまでも父たちは、農業にさまざまな工夫や新たな試みがあることなどをさりげなく、しかも大いに楽しんでいきます。

- ア 父たちは                      イ 工夫や新たな試みがある  
ウ さりげなく                      エ 楽しんでいきます              「      エ      」

4 次の①～③の各文の傍線部の「さっ」「き」「はじけ」をそれぞれ終止形(言い切りのかたち)に直して書きなさい。

- ① 彼らは試合に負けたあと、涙を流しながら球場をさっ<sup>1</sup>ていった。  
② ひときわ高い歓声が耳に飛び込んできて、はっ<sup>2</sup>と我に返った。  
③ 種子の中には、自然にはじけてちっ<sup>3</sup>てしまうものもある。

- ① 「さ(去)る」      ② 「くる」      ③ 「ち(散)る」

5 次の文章の中で、傍線のついた語句の中で文法上他と異なるものを選び、その記号を書きなさい。

合同文化祭が a にぎやかに開催されたが、出身校の小学生の伝統芸能が b 特に見事だった。私たちは、c 静かに鑑賞しながらも、私たちの代よりも少ない人数ながら d みごとに演じた後輩たちを、誇りに思った。

「 b 」

6 傍線部「大きな」とありますが、この「な」と同じ意味・用法のものをあとのア～エの中から選び、記号で答えなさい。

人間の歳の数え方には、「満」と「かぞえ」とがあります。例えば中学校二年生の君たちで言えば、満で十四歳、かぞえで十五歳ということになります。これは、おぎゃあと生まれた時から歳を数えたものを「満」、お母さんの、お腹の中で生きてきた一年を加えたものを「かぞえ」というのです。ですから、君たちには、君たちの生命を大切に守っていく、大きな責任があります。

- ア まるで夢のような出来事だった。
  - イ 君たちの未来にはいろんな選択肢がある。
  - ウ ここは海の近くのたいへん静かな町だ。
  - エ 「道路に飛び出すな。」と注意した。
- 「 イ 」

7 次の文の傍線部「ようだ」と同じはたらきをしているものを、後のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

人間には、人それぞれの固有な行動パターンがあるようだ。

- ア 彼女は、明るく朗らかで、まるで太陽のようだ。
  - イ 私は、彼のような感動を与える選手になりたい。
  - ウ 犬が騒いでる、明日は雪が降るようである。
  - エ 私たちの植えた花が、きつと咲きますように…。
- 「 ウ 」

8 次の文中の傍線部「より」と同じはたらきで用いられている「より」を含む文を、後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

今年の夏より去年の夏の方が、暑かったような気がする。

- ア 母の日に、子どもたちは、腕によりをかけて料理を作った。
  - イ 今年の太平洋高気圧は、例年に比べて東よりに位置している。
  - ウ 「疲れた。」そういうと、囲炉裏のそばの柱によりかかった。
  - エ 実際に試してみたが、思ったより簡単に使うことができた。
- 「 エ 」